

# 会 議 議 事 録(抄)

|      |   |
|------|---|
| 会議名  | 専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 学校関係者評価委員会  |
| 開催日時 | 平成 28 年 7 月 25 日 (月) 18 時 00 分～20 時 00 分  |
| 会場   | 専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール  |
| 参加者  | 外 部 委 員 : 14 名 (委員の氏名・所属等は別添資料参照)<br>学内関係者 : 13 名   |
| 配布資料 | ① 式次第<br>② 参加委員名簿<br>③ 前回議事録<br>④ 平成 27 年度各科卒業研究・卒業制作発表会 (第三回学校関係者評価委員会および第三回教育課程編成委員会) 梗概<br>⑤ 平成 28 年度第一回学校関係者評価委員会 PP 資料<br>⑥ 学科横断企業連携授業 (リアルジョブプロジェクト) 資料<br>⑦平成 27 年度自己評価報告書   |
| 会議録  | <p>1. 開会の辞・事務局紹介 (事務局)</p> <p>専門学校東京テクニカルカレッジ白井副校長の司会により開式が宣言され、配布資料の確認が行われた。</p> <p>2. 学園側関係者挨拶</p> <p>学園側の関係者として、専門学校東京テクニカルカレッジ校長 高瀬恵悟より挨拶が行われた。その中で今年度の人事異動について、また文科省の高等教育に対する動き (新学校種) などを含めた、高等教育を取り巻く状況についての説明があった。</p> <p>3. 委員紹介</p> <p>白井副校長より本日の会議予定の説明のあと、委員の紹介が行われた。</p> <p>4. 議長ほかの選出</p> <p>事務局提案により、本委員会の委員長並びに本会議の議長について選出が行われ、霜野隆 委員が委員長および議長に、書記として小野寺洋子 委員が選出された。</p> <p>5. 開催要件の確認</p> <p>事務局より委員 30 名中 27 名の参加があり、本会が成立していることが確認された。</p> <p>6. 議事</p> <p>(1) 第一号議案：平成 27 年度第二回会議議事録並びに卒業研究・製作発表会の梗概について確認<br/>議長は事務局に対し、資料③、④に基づき前回議事録ならびに発表会梗概の確認を指示し説明をさせた後、これを出席者に回ったところ全員一致で齟齬がないことが確認された。</p> <p>(2) 第二号議案：平成 27 年度事業報告および平成 27 年度自己点検評価報告書に関する説明<br/>議長は事務局に対し、平成 27 年度における事業計画の実施結果について報告を指示、次いで自己点検評価報告について指示した。事務局はこれに応じて以下の様に報告を行った。</p> <p>①27 年度事業報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業実践専門課程として、建築監督科が認可されこれで旧 9 学科全てが認定された。<br/>今年度スタートした Web・動画クリエイター科は来年度申請予定。</li> <li>・文部科学省からの受託事業「環境・エネルギー分野における中核的人材養成プログラム開発事業」につき、建築・土木・設備職域プロジェクトの実証授業を実施。</li> <li>・リアルジョブプロジェクト (RJP) 進捗状況を報告。プロジェクトの第一弾の成果である「テラカフェ」が完成、2 月 13 日オープンセレモニーを実施。</li> <li>・RJP を正規科目とするために、3 月全学科学則変更を実施。</li> <li>・RJP の成果点(コミュニケーション力、グループワーク力向上)と問題点 (進捗管理の難しさ→授業方法確立、目標設定と評価方法確立) について提示。</li> <li>・卒業生アンケートの実施報告とアンケート大項目の提示。 詳細データは次回発表。</li> </ul> <p>②平成 27 年度自己点検評価報告</p> <p>資料⑦に基づき、報告書の主な改訂ポイントについて説明。</p> <p>(3) 第三号議案：平成 28 年度事業計画概要と取組内容の説明</p> <p>①RJP の展開：発信の場としてのテラカフェの活用、各科の新たな取り組み、評価方法の確立の三項目が取組課題として提示された。</p> <p>②三つのポリシー策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業認定、学位授与の方針 (ディプロマポリシー)</li> <li>・教育課程編成、実施の方針(カリキュラムポリシー)</li> <li>・入学者受け入れの方針 (アドミッションポリシー)</li> </ul> <p>(4) 第四号議案：審議 (取り組みに関する意見交換)</p> <p>議長は今回の審議については、内容を絞らずに自由に意見交換を行うよう各委員に促した。以下に各委員の発言概要を示した。</p> |

- ・ RJP2 回目は難しいと思う。あまり現在の成果（カフェ）にとらわれない方が良いのではないかと？映画も二作目は大体失敗する。冒頭の校長挨拶でふれられていた、小学生の 65%が現在存在しない職業に就くという報告は非常に興味深い。最近考えているのは、これからの仕事というものは細分化された中にあるのではないかとということ。コミュニケーションをとにかく取って新たな「仕事」を探していくべき。（安藤委員）
- ・ たしかに以前は一級建築士を持っているとすべて一人でやったが、今はデザイナーも含め多くの人が絡む。全く新しい仕事のありかた、いま気づいていない仕事の分野が出てくるのではないかと。（霜野委員）
- ・ 三つのポリシーについてですが、学位というのは？（濱委員）  
これは大学に要求されているものではありませんが、専門学校の中で先んじて示していく。（白井副校長）  
入学受け入れ方針（アドミッション）、教育の方針（カリキュラム）、そして認定の方針（ディプロマ）。これらのポリシーは今もないわけではないが、大学は明文化するように要求されている。専門学校に対してはまだこれからであるが、これを今年やっつけようということです。（高瀬校長）  
率先して取り組むと言うことで保護者としては大変頼もしく思います。（濱委員）
- ・ テラカフェ発表ではまだ物足りない点もあった。学生に対しては、自分たちの行動が社会からどのように反応されるのか、もっと沢山経験させることが良いと思う。（岸委員）
- ・ RJP も二期目。次の段階では何をするのか？ 学内の論理だけでは弱いのではないかと。一つ別なところからの取り組み、社会とどのようにつながっていくかが大切。大震災から 5 年、地域のコミュニティーがしっかりできているところが復興できている。テラカフェは地域とどうつながってコミュニティーを作っていくのか？そのような視点を持った上での発信を考えていくことが必要。（大塚委員）
- ・ RJP の次の展開として何を足していくか、広げていくか。  
①カフェに足していく。 ②地域連携、調査その他カフェにこだわらず広げていく。特に企業連携の幅を広げてこの二つに取り組んで行きたいと考えている。三つのポリシーの提示はまだ手探り状態である。大学では二年前に出されているのだが、文科省のガイドラインが最近ようやく提示されたような状態。さらに RJP の授業評価、行動プロセス評価は難しいが、現在ルーブリック評価法を用いようとしている。この方法の良い点は学生の伸びしろが見えてくることである。試行錯誤しながら進めていきたい。（白井副校長）
- ・ 添付資料⑥に示したように、文科省はアクティブラーニングを目指している。これまではコントロール可能な場での教育、RJP はそうでないところもある状況での教育。しっかりと取り組んでいきたい。また文科省からは、デュアルシステム（教育と職業訓練）についての研究に参加しないかとの打診もあり現在検討中。（高瀬校長）
- ・ カリキュラムは今年からが正念場。農業 IT とか医療 IT とかスマートインダストリーが生まれている。科をのりこえて行くようなテーマを取り上げてほしい。カフェ・ワークショップなどで、取り上げ取材したり発表したりする中で学生が体験していけるようにしてほしい。（佐々委員）

7 次回日程について（事務局）

- ・ 11 月 29 日（火）18 時 00 分～20 時 00 分 開催を予定している。

8. 閉式の辞（議長）

閉式にあたり、霜野議長より、テクニカルらしい取り組みがなされている。これからさらに進化していくために皆様の協力をお願いしたい、とのコメントがあった。

以上

議事録署名人

印

印